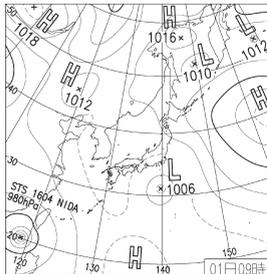


日々の天気図

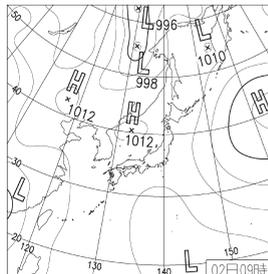
— No. 175

2016年 8月

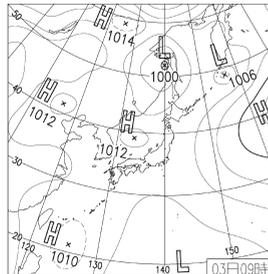
・落雷死亡事故、1日は佐賀県の水田で、4日は埼玉県の牧場でも。
 ・22日、千葉・宮城県等で竜巻・突風。
 ・23日、北海道は台風第9号上陸で1951年への統計で初の年3個上陸。
 ・30日、東北太平洋側に台風上陸は初。月に4個台風上陸は最多タイ。北日本で河川の氾濫等大きな被害。(気象庁予報部予報課)



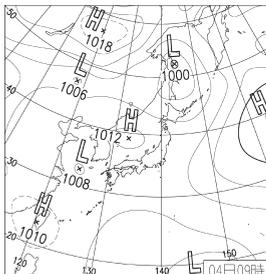
1日(月)東・北日本各地で雷雨
 寒気を伴った低気圧と日本の東からの湿った気流の影響で東～北日本の太平洋側で曇りや雷雨。群馬県沼田で77.5mm/1hなど各地で史上1位更新。沖縄～西日本は晴れて暑い。



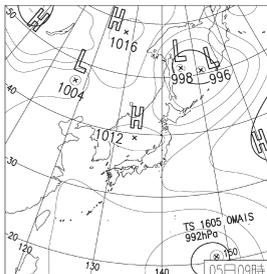
2日(火)東・北日本、雷雨拡大
 関東の東海上を寒冷低気圧が北上。東日本～東北を中心に広範囲で大気の不安定な状態が続き、非常に激しい雨や雷雨。福島県鷲倉の75mm/1hなど史上1位、8月1位更新多数。



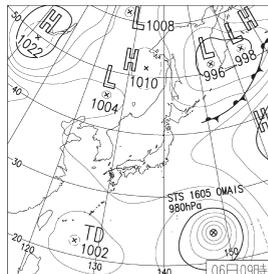
3日(水)内陸中心に激しい雷雨
 上空寒気の影響で引き続き大気の状態が不安定。朝にかけ北陸・関東で非常に激しい雷雨。午後は西～北日本の内陸を中心に激しい雨や雷雨。栃木県佐野76.5mm/1hで8月の1位。



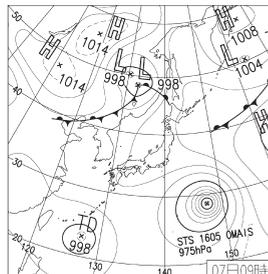
4日(木)台風第5号発生
 紀伊半島沖を寒冷低気圧が南西進。西～北日本は高気圧に覆われ晴れたが午後は西～東日本の山間部中心に局地的な非常に激しい雷雨。栃木県鹿沼71.5mm/1hで8月の1位更新。



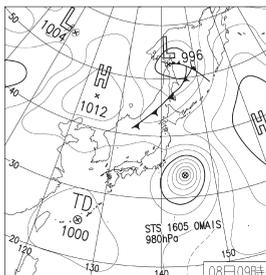
5日(金)西～東日本で猛暑
 寒冷低気圧が四国沖から南西諸島へ、本州付近は高気圧に覆われ晴れて京都府園部37.5℃など猛暑日77地点。南西諸島や西～東日本山間部で局地的な雷雨。沖縄県川平で43mm/1h。



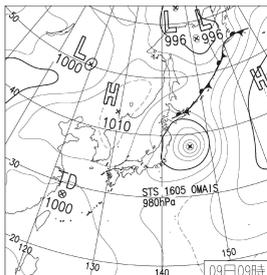
6日(土)引き続き厳しい暑さ
 西～北日本は高気圧に覆われ、山沿い中心に一時雨のほかは概ね晴れ。大分県日田で38.2℃など113地点で猛暑日。沖縄～九州南部は上空寒気と湿った気流の影響で曇りや雷雨。



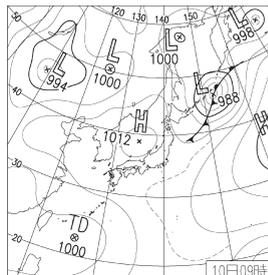
7日(日)真夏日今夏最多
 熱帯低気圧が沖縄付近を北上。沖縄～九州南部では湿った空気の影響で曇りや雨、その他は概ね晴れ。北日本日本海側でも猛烈な暑さとなり、真夏日地点数は757、猛暑日も131。



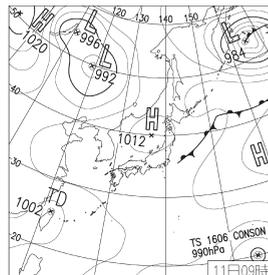
8日(月)全国的に厳しい暑さ
 北海道と沖縄は前線や熱帯低気圧の影響で激しい雨。台風第5号は日本の東を北上。関東以北の太平洋側は曇りや雨。全国で猛暑日164地点。岐阜県多治見39.7℃で今夏全国最高。



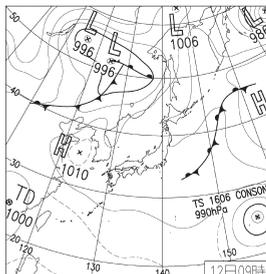
9日(火)猛暑日今夏最多
 強い日射とフェーン現象により気温が上昇した関東を中心に猛暑日198地点。東京都心も37.7℃で今夏最高。北日本や北陸は台風第5号と前線の影響で雨。北海道栗沢で48.5mm/1h。



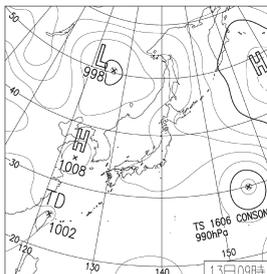
10日(水)西日本中心に猛暑
 西日本中心に晴れて暑さ厳しく九州は猛暑日多数。沖縄の南に熱帯低気圧発生し沖縄・奄美は湿った気流の影響で雨。午後関東では局地的大雨。神奈川県相模原中央で86.5mm/1h。



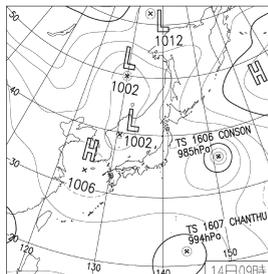
11日(木)高気圧に覆われ晴れ
 日本付近は広く高気圧に覆われ西～北日本は概ね晴れ。湿った気流の影響で沖縄・奄美では所々で雨や雷雨。九州中心に猛暑。福岡県大牟田で37.5℃など史上1位多数。



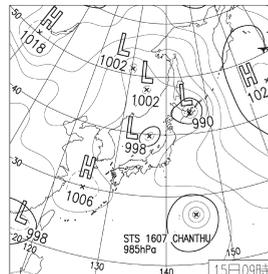
12日(金)西日本で猛暑続く
 高気圧に覆われて先島諸島や東日本太平洋側の一部を除き概ね晴れ。猛暑日地点数は118で7日連続の100地点超。大分県大銅38.7℃は8月1位、佐賀県嬉野38.5℃は史上1位。



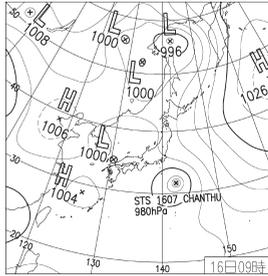
13日(土)残暑続く
 全国的に高気圧に覆われ概ね晴れ。北海道太平洋側東部では曇り。沖縄では一部で曇りや雨。午後、九州などで湿った空気の影響で非常に激しい雨。宮崎県鞍岡で52.5mm/1h。



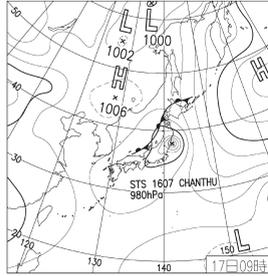
14日(日)台風第7号が発生
 15日にかけて小笠原近海を北上。湿った空気の影響で東～北日本の太平洋側の一部で曇りや雨。ほかは概ね晴れて西日本～北陸は猛暑日。午後は西日本～東海で局地的に激しい雷雨。



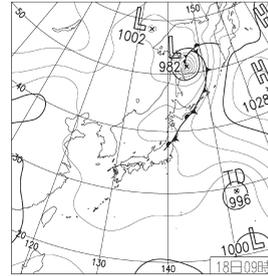
15日(月)九州～東北局地的大雨
 日本海を気圧の谷が東進。湿った空気の影響で広い範囲で激しい雷雨。京都府福知山68.5mm/1hで史上1位。台風第6号は根室半島を通過後温帯低気圧に。宮城県・福島県で震度4。



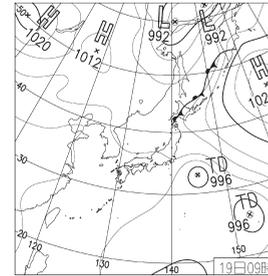
16日(火)台風第7号関東接近
西日本や北陸は日本海の気圧の谷と寒気の影響で所々激しい雨。台風第7号は伊豆諸島の東から関東沿岸を北上。関東は夜から風雨強まる。北日本も湿った空気の影響で曇りや雨。



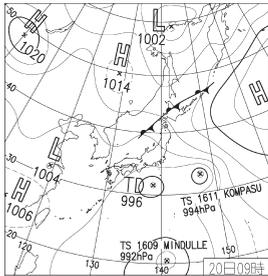
17日(水)今年初めての台風上陸
台風第7号は三陸沖を経て北海道に上陸。翌日温帯低気圧に。茨城県土浦65.5 mm/1hや釧路最大瞬間風速43.2 m/sなど史上1位。関東以西は晴れ。午後雷雨も。群馬県館林39.6°C。



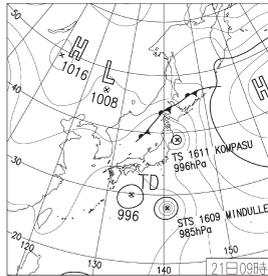
18日(木)関東などで猛烈な雨
北～東日本に前線停滞。上空寒気入り。東日本中心に猛烈な雨や雷。宇都宮で83 mm/1h、長野県笠岳で史上1位の68.5 mm/1h。西日本は晴れて猛暑日。佐賀県嬉野、大阪府堺で37.3°C。



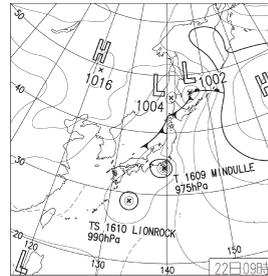
19日(金)台風第9号発生
北日本に前線停滞。西日本中心に晴れて猛暑日115地点。鹿児島県喜界島では最高気温35.8°C(17～21日に連日極値更新)。午後は山間部中心に雨。熊本、茨城・栃木の各県で震度4。



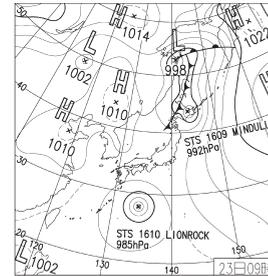
20日(土)北海道で再び大雨
日本の東で台風第11号発生。北海道は前線停滞し湿った空気流入。赤平で52 mm/1h。日降水量の173.5 mmが史上1位となるなど北海道各地で大雨。西日本中心の猛暑続く。



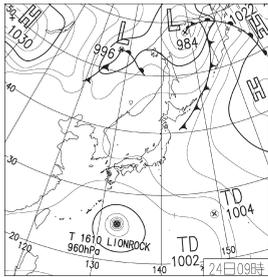
21日(日)台風第11号北海道上陸
沖繩・奄美や西日本は晴れて暑い。東日本も概ね晴れ。北海道は台風第11号が夜に上陸。前線も影響し、引き続き大雨。各地で日降水量100 mm以上に。日本の南に台風第10号発生。



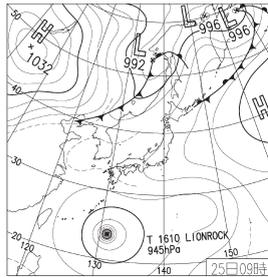
22日(月)今年3個目の台風上陸
台風第9号は昼過ぎ千葉県に上陸。関東・東北を北上。東京都青梅の107.5 mm/1hや埼玉県所沢の76.5 mm/1hなど史上1位となる記録的な大雨。関東・東北で突風被害も。



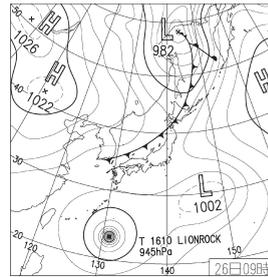
23日(火)北海道今年3個目上陸
台風第9号が北海道に上陸。その後温帯低気圧化し消滅。東～北日本は雨で栃木県真岡で史上1位90.5 mm/1hの猛烈な雨。北海道も白登で日降水量180 mmなど記録更新多数。



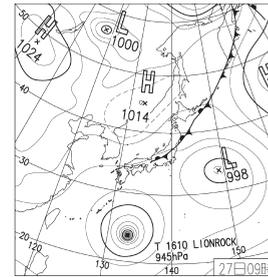
24日(水)太平洋側で雨
上空の寒気と湿った空気の影響で大気の状態が不安定。北日本で晴れたほかは、近畿～関東を中心に局地的に非常に激しい雨や雷。東京都神津島で8月1位となる58 mm/1h。



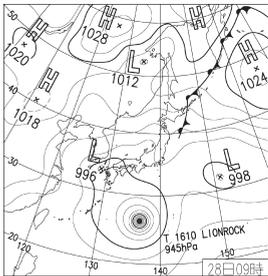
25日(木)全国的に気温上昇
気圧配置の変化小さく不安定な大気の状態が続く。香川県財田で史上1位の65.5 mm/1h。三重県でも非常に激しい雨。猛暑日87地点。真夏日634地点。福岡県久留米で37.5°C。



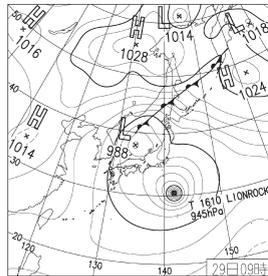
26日(金)北日本前線通過
オホーツク海からのびる寒冷前線が北日本を通過。北日本は雨で岩手県荒屋で史上1位の55.5 mm/1h。西日本日本海側～北陸も曇りや激しい雨。西～東日本の太平洋側は晴れて暑い。



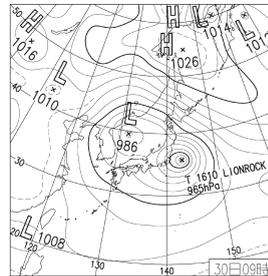
27日(土)本州付近に前線が停滞
前線の影響で関東を中心に激しい雨。栃木県今市では73 mm/1h。東～北日本では最高気温20°C未満の所も。西日本でも大気の状態不安定。沖縄・奄美や北日本日本海側は概ね晴れ。



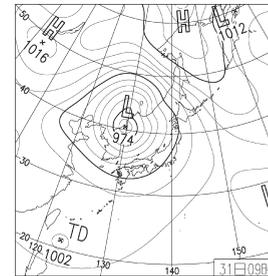
28日(日)三宅島で猛烈な雨
西日本上空に寒気南下。本州付近は湿った空気流入。北日本日本海側で晴れたほかは曇りや雨。九州北部は低気圧の影響で非常に激しい雨。最高気温は低く9月下旬～10月上旬並。



29日(月)西日本で激しい雨
寒気と湿った空気の流れにより大気の状態が不安定となり西日本で激しい雨。高知県魚梁瀬では85.5 mm/1hで8月1位。田野では82.5 mm/1hで史上1位の猛烈な雨。



30日(火)北日本中心に大荒れ
台風第10号は夕方岩手県に上陸。北日本や関東で日降水量200 mm前後。岩手県宮古と下戸鎮で80 mm/1h。北海道大滝70 mm/1hなど史上1位も。宮古最大瞬間風速37.7 m/sは8月1位。

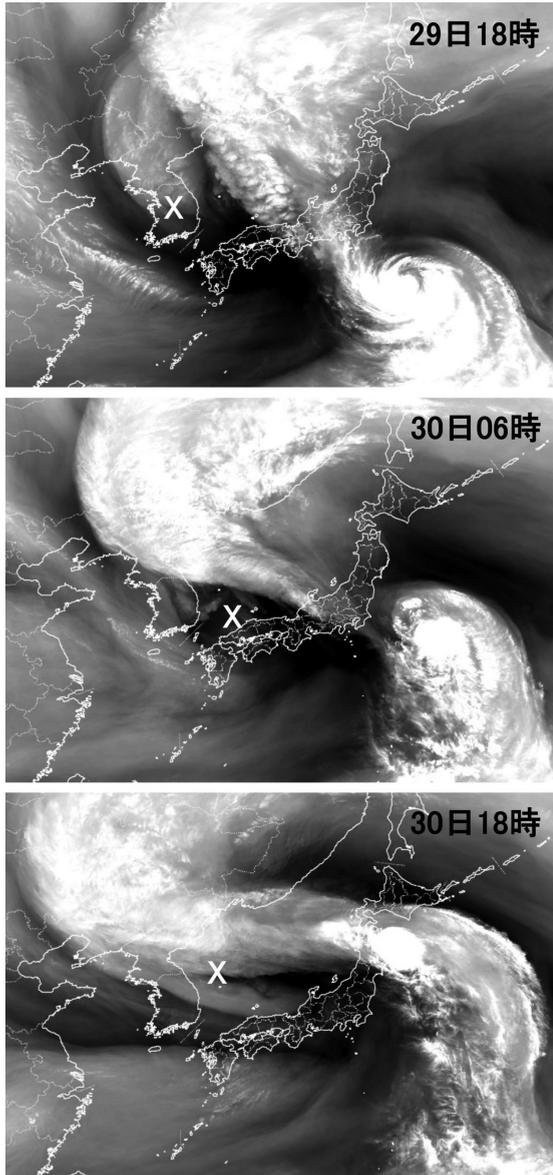


31日(水)北海道大雨で洪水も
日本海で台風第10号温帯低気圧化。湿った気流により北海道で激しい雨。その他の地域は日中概ね晴れ。北海道ぬかびら源泉郷で37.5 mm/1h。日降水量145.5 mm。熊本県で震度5弱。



今月のひまわり画像—2016年 8 月

上層寒冷渦と台風第10号



第1図 2016年8月29日18時～30日18時（日本時間）の12時間毎の日本付近における水蒸気画像（記号Xは気象庁メソ数値予報モデル（MSM）の400 hPa面における寒冷渦の中心を示す）。

第1図は2016年8月29日18時～30日18時（日本時間）の12時間毎の日本付近における水蒸気画像である。朝鮮半島南部から日本海西部に進む上層寒冷渦（記号X）と本州の東海上を北上する台風第10号を確認することができる。この寒冷渦は、気象庁全球モデル（GSM）の350 Kの等温位面上における渦位の追跡によると、偏西風の蛇行に伴い南西に伸長していたモンゴル付近の高渦位の領域から24日頃に切離され、次第に南下したが、8月の日本付近では近年例を見ない顕著なものであった。一例として、1957年からの統計がある福岡の高層観測データを見ると、このトピックスが次の3点から浮き彫りになる。(1)ジオポテンシャル高度は29日21時の175～500 hPa 付近、30日09時の175～400 hPa 付近、21時の600～700 hPa 付近で8月としては最も低くなっていた。(2)対流圏下層における低温が顕著で、29日21時の800～850 hPa 付近、30日09時の700～850 hPa 付近で8月の極値となり、それまで猛暑が続いていた九州、中国地方では30日を中心に同月の日最低気温の極値が更新された観測地点が多かった。(3)成層圏下部に目を向けると、昇温が際立っており、29日21時の150～200 hPa 付近、30日09時の150～175 hPa 付近で同月の高温の極値となっていた。

21日21時に日本の南海上で発生した台風第10号は進行方向を180度変えるなど複雑な経路をとっていた。29日夜に関東の南東海上に進んだ後は、上述の寒冷渦と北海道の東海上のリッジの間に形成された中上層の強風軸の影響を受け、やや加速しながら北上し、30日17時半頃に強い勢力を保ったまま岩手県大船渡市付近に上陸した。台風が東北地方の太平洋側に上陸したのは1951年の統計開始以降初めてであった。第10号の接近・通過に伴い岩手県、青森県、北海道では記録的な大雨となり、1時間降水量が岩手県宮古、久慈市下戸鎖で共に80.0 mm、岩泉で70.5 mm となるなど降水量の通年の極値が更新された。このため、各地で土砂崩れ、河川の氾濫などが発生し、岩手県で23名、北海道で4名もの死者・行方不明者が出た（9月末現在）。

（気象庁予報部予報課 木下 仁）